

Timeline

BRAUN Design



技術者マックス・ブラウンは、フランクフルト・アム・マインにラジオ部品の製造会社を設立し、1920年代にパワーアンプやラジオ受信機を完成。マックス・ブラウンはヨーロッパにおいて、ラジオとレコードプレイヤーの複合機を初めて世に送り出す。

第二次世界大戦中、BRAUNは事実上非軍事用品の製造を断念せざるを得なくなりフランクフルトの工場が壊滅状態となるが1945年に、マックス・ブラウンは150人の従業員とともに会社の再建に乗り出す。

マックス・ブラウン急逝。彼の息子である、技術者のアルトゥールとビジネスの学位を取得していたエルヴィンが会社を引き継ぐ。ブラウン兄弟は、「人々従業員と顧客」に対する「尊厳」というビジョンを掲げ、高いデザイン性と機能性を持つ優れたプロダクトを多く生み出していくことを目標に動き出す。



当時まだ若い23歳のディーター・ラムスの採用は、ブランドにとって将来的に大きな意味のある出来事となる。ラムスはインテリアデザイナーとしてキャリアをスタートさせ、すぐにBRAUNのインハウスデザインチームの中心となる。



TFG2 (1968年)
ライター

1950年代末ブラウンの製品はニューヨークのMoMA(近代美術館)など、一流のパーマネントコレクションに選ばれるようになりディーター・ラムスとBRAUNデザインチームによって生み出されたデザインコンセプトは、またたく間に名声を得ることになり、それから時代の変遷とともに様々な製品をデザインしていくことになる。



1997年ディーター・ラムスが退社。ピーター・シュナイダーがラムスの後継者としてチーフデザイナーに就任。

1921

1944

1951

1955

1958

1997

1934

いまや誰もが一度は目にしたことのある、個性的な文字の膨らみと丸く描いた“A”を中央に配した「BRAUN」ロゴが生み出される。

BRAUN

1950

現在のブラウン・シェーバーに採用されている、初の電気シェーバーS50の生産を開始。



S50 (1950年) シェーバー

1954

更なるデザイナーを求めているBRAUN社は、ドイツのモダンインダストリアルデザインと密接に関わり、ウルムに設立されたばかりのデザインアカデミー“ウルム造形大学”に注目し、パウハウスの流れを汲み、デザイン史に名を残すチームが創られた。そしてたった8カ月の間にポータブルラジオからミュージックキャビネットまで、完全に新しい顔のBRAUN製品ライン全てを作り出す。



T1000 (1963年) ワールドレシーバー

1980

1980年代掛け時計、腕時計、計算機は主力商品となり、新しい技術と組み合わせられた自明性、省エネルギー性の新しいデザインスタンダードを確立。またパーソナルケア用品と家電品ビジネスに注力しシェーバーにおいては今日でも同様に、BRAUNにとって最大のビジネス分野で、より良いデザインの革新を特徴としている。

2011

1990年代電動歯ブラシと女性用シェーバーという2つの重要なビジネス分野が現れ、その後は女性用美容器具の国際的ブランドとしても発展する。デザイン哲学である「過去の豊かな伝統を基準にしながら、消費者のニーズを満たすための進化をつづける」というコンセプトの元、ラジオ、レコードプレイヤー、計算機、時計、電動歯ブラシ、シェーバーと多岐のプロダクトを世に残しその作品の数々は長い時を経て現在も多くの人々に愛され続けている。



ABW30 (1982年)



ET66 (1987年)



AW10 (1989年)